

4・25法大闘争へ!

2014年4月17日
No.185

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

4・25へ新入生が続々決起を表明! 安倍・オバマ・田中優子打倒へ!

開講から一週間。法大闘争は破竹の勢いで進んでいます。

文連・全学連の闘いに追いつめられた法大当局は何と、昼休みに警察権力を警備車両とともに連日配置。学内にも警察権力が入り込んで弾圧を仕掛けてきています。オバマ訪日とあわせた治安弾圧攻撃そのものです。

さらに無罪への謝罪と武田文連委員長の処分撤回を求める要望書を田中優子新総長の自宅に文連の学生が送るも、社会学部窓口に続いて自宅でも受け取りを拒否。エセ「リベラル」田中優子の悪らつな本性は日々明らかとなっています。

一方で法大と首都圏大学新入生の4・25集会参加が続々と決まっています。

法大新入生の4・25アピールを紹介します。

「法大といえばMARCHの中の1つの大学としてイメージが強く、ネームバリューがあり歴史のある素晴らしい大学だと思っていました。ところが法大の説明会に参加した日の帰り際に、社会科学研究会の方々に話しかけられたのがきっかけで、この大学に対する印象が変わってきました。『3・14弾圧事件』の話聞いた時には、この大学はおかしいんじゃないか、と斬新に思えるほどでした。なぜ学生を処分するのか、なぜ無罪になった学生に対し



て謝罪しないのか。驚きを隠せませんでした。当たり前のことを当たり前のようにできない体制なのは大問題。それも大学という組織が。大人がこんなようでは子どもに舐められても仕方がない。恥を知ってほしいです。法大に入学して、まだまだこの件について知らないことがたくさんありますが、このような実態であるということ了他大学の知人や友人にも教えたいと思いました。」

4・25法大解放総決起集会は無罪戦取の地平から不当処分を撤回する決定的な闘いです。改憲・戦争・原発再稼働に突き進む安倍とオバマを許さず、法大生・全国学生の大結集で安倍・オバマ・田中優子を串刺しにしよう。(法大・H)

「大学改革」粉碎! 大学の主人公は学生だ!

4・25法大解放総決起集会

4月25日(金) 12:40~ 法政大学市ヶ谷キャンパス集合

13:30~ 法大包围デモに出発

※終了後、文科省に申し入れ行動

呼びかけ: 4・25集会実行委員会

(法政大学文化連盟 <http://08bunren.blog25.fc2.com/> bunren08@yahoo.co.jp)



●京大新歓闘争報告

京都大学でも自治会を軸とした新歓闘争が前進しています。松本総長は今年9月の任期切れを前に昨年末、「任期の延長」と「総長選挙の廃止」を突然うち出しました。それが、同学会中央執行委員会の呼び掛けた「本部棟座り込み」闘争によって断念させられると、今度は総長選考会議においても全く一致のとれていない「総長の国際公募」を新聞紙上で一方的に発表するに至りました。松本総長体制最期の6年目にして、いよいよ学内外から「松本打倒」の広範な怒りの声が上がりに始めています。

その松本総長は4月7日の入学式の式辞で「我ら日本人の姿」「日本人の矜持」などと、従来の「国際性を養う」に加えて「日本人」という言葉を繰り返しました。開講した授業では必修科目の英語化が進められ、教員も学生も無意味な「英語での専門授業」を強制されています。これはJR東海会長・葛西などの進める原発・鉄道・水道のインフラ・パッケージ輸出や安倍の集団的自衛権行使容認と一体の攻撃です。学生の回答は「グローバル人材育成戦略粉砕」「安倍・葛西・松本打倒」「自治会建設」以外にありません。

開講前から新生に「武田君の処分撤回署名」と「原発再稼働反対署名」を呼びかけ、数多く集まっています。大学法人化、原発再稼働についての熱い討論が始まっています。前進の3.11報道号、新生歓迎号も数十部が受け取られ、読まれています。

4月13日には全学自治会同学会中央執行委員会と研究部会の主催した新歓講演会が行われました。ふくしま共同診療所の医師と法大文化連盟の武田君にそれぞれの闘いを熱く語ってもらい、新生も含めた40名が熱心に聞き入っていました。直後の交流会も非常に盛り上がりがありました。また、マル学同の主



ふくしま共同診療所・杉井医師の講演会（京大）

催する毎週水曜日の前進学習会にも、多くの新生が集まり、革命をめぐる討論が始まっています。学生寮でも武田君の処分粉砕へ夜を徹した討論が行われています。さらに、4.25法大集会への参加も続々と決まっています。自ら集会への参加を呼び掛ける新生も登場しています。4.25法大集会の大爆発へ向けてますます闘いましょう。

●東北大新歓闘争報告

東北大では4月1日の新生健康診断から新歓が始まりました。学生自治会の執行部・書記局が団結して連日奮闘し、多くの新生との結合が生まれています。

今年の新歓闘争の特徴の一つは、新歓パンフレットなどの宣伝戦が成功していることです。今年4月4日の入学式までに1400部のパンフが新生に手渡されました。これが例年になく読まれ、「若者の未来を奪う安倍政権を全国300万学生の行動で倒そう」「大学のブラック企業化を許さず学生が主役の大学をつくろう」（新歓パンフの大見出し）の訴えが届いている手ごたえを感じています。

いま一つは、大学当局のネガティブキャンペーンが無効化してきているということです。入学式のあとに行われる大学当局主催のオリエンテーションにおいて「学生自治会とは関わるな」というキャンペーンが行われたあとも、続々と新生と討論が巻き起こり、「学生運動に興味がある」「学生自治は大事だ」といった反応が出てきています。実際に結合も開始されています。

これらから言えることは、本格的に革命情勢が到来しているということです。資本主義・新自由主義が崩壊を開始する中で、社会変革の欲求が高まっているということです。新生と討論をすると、例えば福島の子どもの甲状腺がんが多発しているという問題はほとんど知られていません。しかし、真実を暴露し、行動を呼びかけることが怒りと決起を生み出す構造になっています。大学当局の悪宣伝は、闘う者への共感と求心力となっています。4月15日に行われた新生歓迎講演会にも、飛び入りの学生が駆け付け、交流を深めました。

問われていることは、学生の目に“本物の闘う者”として映るかどうかです。結合を開始した新生と団結を深め、学生自治会が団結を強化・拡大し、力を持っていくかどうかにかかっています。残る新歓決戦を全力で闘い、4・25法大闘争に東北大から攻め上っていく決意です！

【当面する行動方針】

●集団的自衛権に反対する4・27集会

4月27日(日) 13時半～ 星陵会館(千代田区永田町2-16-2) ※集会後にデモ
【主催】とめよう戦争への道！ 百万人署名運動

●5・17～19沖縄現地闘争

辺野古新基地建設阻止！「改憲・戦争」の安倍政権打倒！ 学生自治会を甦らせよう！

●6・13法大処分撤回第6回裁判

6月13日(金) 16時～ 東京地裁・615号法廷にて ※30分前までに裁判所脇に集まって下さい

